

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 19日

都道府県知事
（市長）

殿

提出者

住所 東京都台東区台東1丁目32番6号

氏名 株式会社カナオカグラフィア

代表取締役社長 金岡良延

電話番号 048(543)6211



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社カナオカグラフィア 埼玉第二工場
事業場の所在地	埼玉県鴻巣市笠原854-1
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

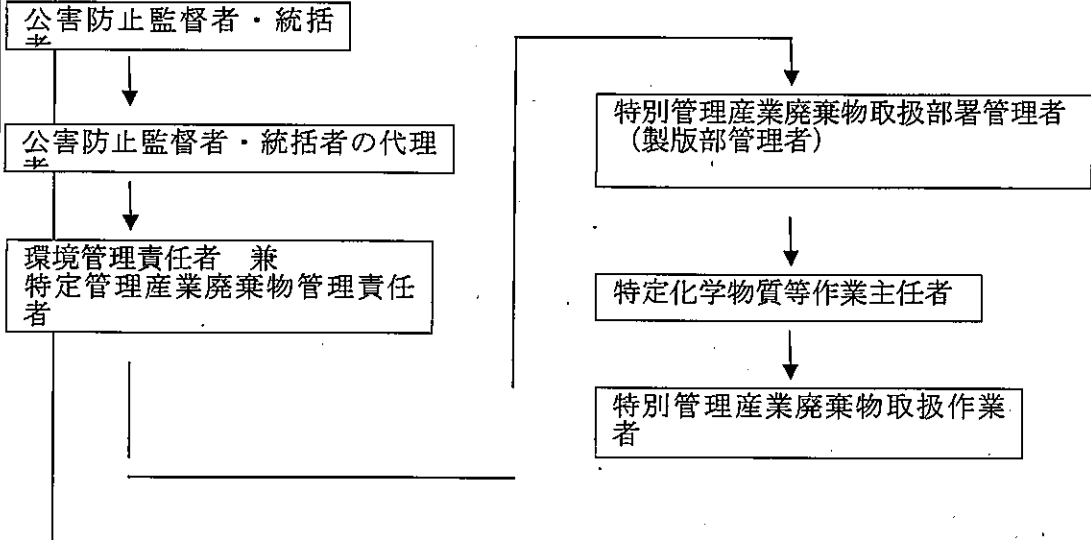
①事業の種類	印刷・同関連産業
②事業の規模	466千万円（生産金額）
③従業員数	340名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	※別紙フロー図を参照

（日本工業規格 A列4番）

（第2面）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	排出量	144 t	t
	(これまでに実施した取組) 平成 27 年から行っている母材（鉄心）の再利用化により、下地メッキでの廃酸発生は減りました。しかしながら毎年売上は増え続けている事で、版の生産も増えています。昨年度は版を作る機械が故障した事で、その分を協力工場で賄ったため、社内生産が一昨年より減り、廃酸量も減った。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排出量	144 t	t
	(今後実施する予定の取組) 社内生産に戻る事で、一昨年度の155 t 近く増えてしまう可能性が高い。版製造時のメッキ工程においてロスを減らす事を継続。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特記事項なし
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特記事項なし

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	t

	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	全処理委託量	144 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	144 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託 量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		

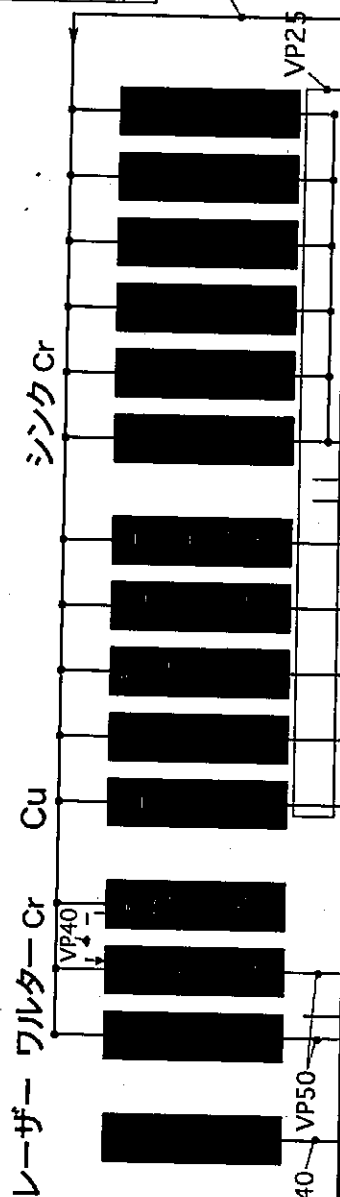
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	全処理委託量	144 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	144 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		144 t
	(今後実施する予定の取組等)		
※事務処理欄			

廃水処理クロージドシステムのフロー

3階 製版エリア

レーザー	バルブ	フランジ
ワルターCr	1箇所	4箇所
Cu	0箇所	1箇所
シンクCr	15箇所	7箇所
	10箇所	5箇所

VP25-HI



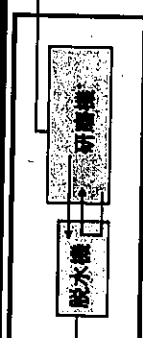
1階 天井下
※3階の下は2階が無く1階になります。

VP40-HI
↑
内径40mm

屋外 排水処理エリア

濃厚廃液	バルブ	フランジ
原水槽地下タンク	2箇所	22箇所
中間槽地下タンク	5箇所	28箇所
濃厚廃液槽地下タンク	1箇所	22箇所

循環水



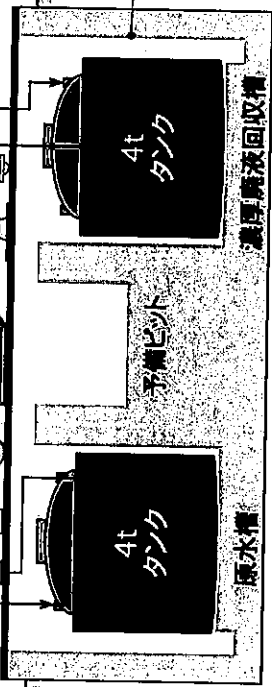
VP100
イオン交換塔
カチオン アニオン

VP50

業者委託処分
回収 (月3回)



地下



ピット
FRP2層コート
ケミクリートSV

水質監視計 加圧貯槽
交換 (月4回)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が 50 トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。

9 ※欄は記入しないこと。